

在宅医療・介護多職種連携協議会 研修部会 ～報告～

目 的

在宅医療に係る多職種連携の推進のための研修体制について検討する。

○顔の見える関係会議や在宅医療研修の内容について検討

○その他の研修(各団体主催研修会の連携・調整など)について検討

<令和3年度> 部会内容

第2回部会

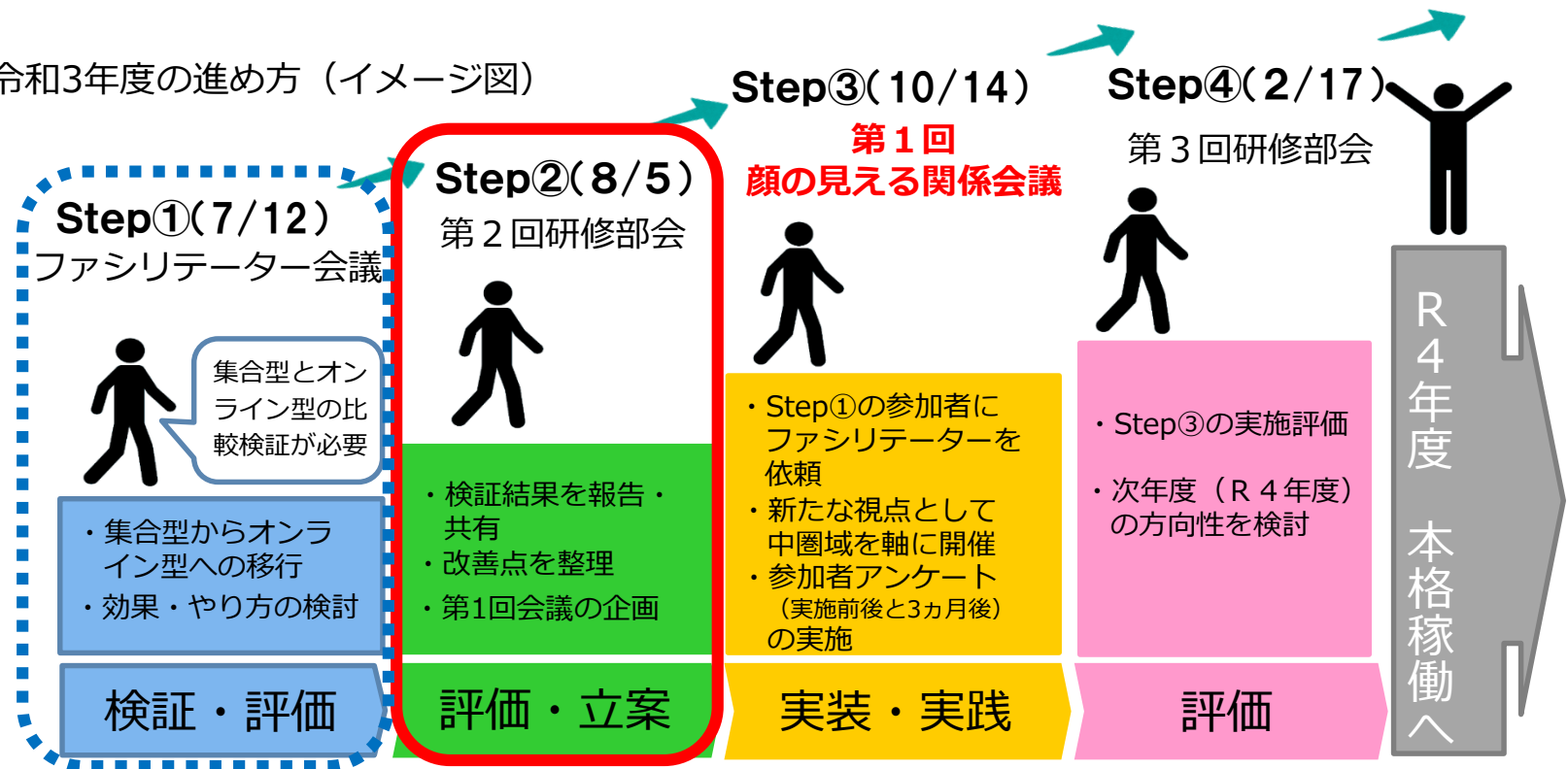
オンライン会議
(令和3年8月5日)

- 1 議事内容
 - ・第1回顔の見える関係会議 企画案の検討
 - ・顔の見える関係会議 評価項目(案)の検討
- 2 報告事項
 - ・意思決定支援 支援者向け研修(eラーニング)

今年度の顔の見える関係会議は、「オンラインを活用」して試行的に実施し、「オンラインでも多職種連携につながるのか(効果)」の検証をおこないながら、次年度の本格稼働に向けて、取り組みを進めています(下記イメージ図のとおり)

- 7月のファシリテーター会議では、研修部会員に加えて、既存の顔会議を知るファシリテーター経験者の皆様にも御協力いただき、実際にオンラインにてグループワークを行い、効果を検証しました。
- 第2回研修部会では、ファシリテーター会議の結果を踏まえて、**第1回顔の見える関係会議の企画**を行いました。

■令和3年度の進め方(イメージ図)



【報告】第2回研修部会 <第1回顔の見える関係会議の企画>

第2回研修部会では、ファシリテーター会議で実際に行ったオンライングループワーク方法等の結果を踏まえて、以下のご意見をいただきました。

■グループ人数

(事務局案) 1グループ7名程度, 5~7グループ

- <ご意見> ・ **5~6名位がいい**
- ・ 1つの画面で映りきる人数 = 6人が適当
 - ・ 6名以上だと発言できない人がでる
 - ・ 進行役も7名に発言を振るものは時間的に難しい
 - ・ 4名は少なく寂しい



■時間配分 (工程1・工程2・発表)

(事務局案) 工程1 : コロナ禍の多職種連携で困ったことを共有する (25分)

工程2 : 工程1の困り事に対し、工夫したことを共有し、明日の業務に役立てられることをまとめる (25分)

発表 : 各グループ1分ずつ, 全グループ発表

- <ご意見> ・ **工程1 (困ったこと) で工程2 (工夫したこと) も一緒に話していた**
- ・ 不慣れな人や初対面の人も多いので、工程1の**アイスブレイク**や**雑談の時間は大切**
 - ・ **工程2に記録をまとめる時間がほしい**
 - ・ 発表は、画面共有してからの**2分**がいい
 - ・ **タイマー**があった方がいい
 - ・ 全グループ発表は時間的に難しい、同じ内容は発表しない工夫が必要

■役割分担 (FT・進行役・書記)

(事務局案) オンライン会議の工夫 : 進行役の負担軽減のためファシリテーター (FT) を置く, 書記が意見をまとめて入力する

- <ご意見> ・ 1グループ6名ならばFTと進行役を兼ねて**ひとりでも対応可**
- ・ 進行役は時間配分もあり, **顔会議経験者のサポート (協力者)** があればいい
 - ・ 書記は入力に専念してしまい, 議論に参加できない, **研修部会員やFT経験者**に依頼する

■記録方法 (フォーマット)

(事務局案) 書記が入力するフォーマットを準備

- <ご意見> ・ ゴールが共有できるので**フォーマットはあったほうがよい**

第1回顔の見える関係会議 ★決定事項★

グループ人数	★1グループ 5～6名程度とする
時間配分	○工程1 (30分) ・アイスブレイク ・コロナ禍の多職種連携で困った事と工夫したことを共有する ○工程2 (20分) ・工程1を振り返り、明日からの業務に役立てられることを共有する ・発表の準備 *工程1で時間が残れば、雑談や工程2を話し合ってもよい ○発表・1グループの発表時間を2分に、タイマーを使用
役割分担	★進行役1名（ファシリテーターは置かない） ★グループメンバー内に協力者（顔会議経験者等）を事前をお願いする ★書記は、研修部会員やFT経験者が担う
記録方法	★フォーマットを用いる



オンライングループワークへの感想（ファシリテーター会議にて）

- ・案外できるものだなというのが正直な感想です
- ・思っていたより意見が活発に出てやりやすかった
- ・通常の顔会議より、グループのまとまりは良い
- ・他のグループが見えない、声が入らないので会話に集中できた
- ・意外と周りを気にしないで意見が言える
- ・常に1人1人の顔が真正面に見られて、お互いの表情がわかりやすい
- ・対面よりも伝えることを意識するので丁寧な発言になる
- ・操作に慣れれば、参集と変わらない親近感を持つことができる
- ・少人数なら面白いが、不慣れな方は疎外感を感じるかもしれない

第1回顔の見える関係会議では、
ファシリテーター会議・第2回研修部会でいただいたご意見を踏まえて、
開催しました（会議結果は別途報告します）

■ 今までの評価アンケート

- 『**会議** (テーマ・グループワーク・ミニレクチャー) **が役立つ内容であったか**』を確認し、次の企画に反映 (参加直後のみ)
- 令和元年度：『**他職種への理解・連携の評価項目**』を上記項目に追加 (参加直後のみ)
 - <追加した質問内容>
 - ・ 顔会議に参加することで他職種との連携はしやすくなるか
 - ・ 他職種の仕事内容を知ることができたか
 - ・ 他職種それぞれの役割が理解できたか
 - ・ 医療・介護職種間の敷居を感じるか
 - ・ 顔を合わせて話をするすることで、敷居を下げることはできるか

■ 令和3年度の評価アンケート

今年度は、オンライン会議導入での再開となるため、

<令和3年度の評価アンケート(事務局案)>

- オンライン顔会議がきっかけとなり、今後のオンラインを活用した多職種連携の推進につながったか
- 令和元年度アンケート『他職種への理解・連携の評価項目』(コロナ前後での比較)

意識だけでなく、行動変容も確認するため、

参加前・参加直後・参加3カ月後にアンケートを実施する

第1回研修部会では、事務局案に加えて、多職種連携への効果を計る質問内容について、ご意見をいただきました。

第2回研修部会でいただいたご意見（一部抜粋）

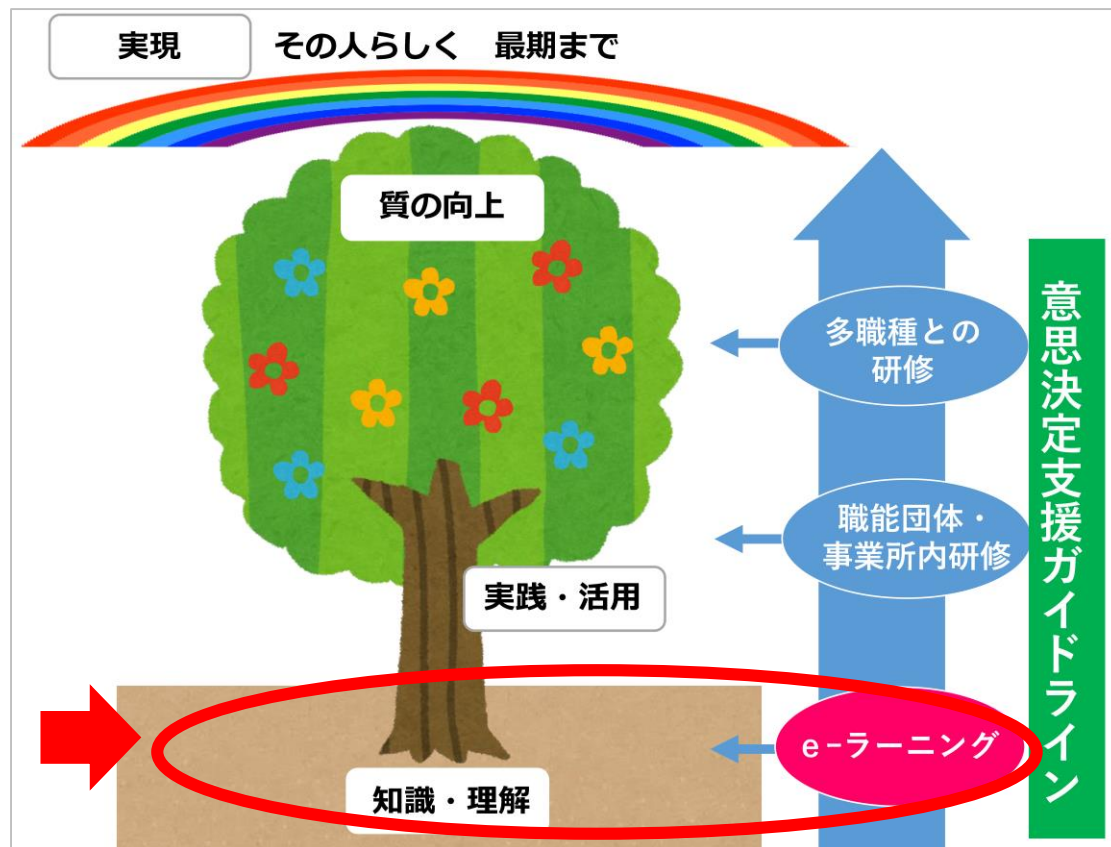
参加前	(例示) 困った時に相談できる他職種はいるか オンラインを活用して多職種連携しているか ・ 日頃からオンラインを活用しているかどうか
参加直後	(例示) 困った時に他職種に相談したいと思うか（意識） オンラインを活用して連携してみたいと思ったか（意識） ・ オンライン会議で親近感が得られたか
3ヶ月後	(例示) 困った時に他職種に相談したいと思うか（意識の継続）相談したか（行動） オンラインを活用して連携したか（行動） ・ テーマに沿った成果が業務上得られたか、つながったか
その他	・ 例示内容でよい ・ 日常業務：担当者会議、退院時カンファレンス、リハビリ会議など具体を挙げる ・ 戸惑った時に 気軽に連絡できるような人 はいますか？ ・ 困った時を具体的に聞く→ 困った時にどうしていますか？ ・ 相談できなかった職種に相談できたか、新たにつながることができたか （3ヵ月後） ・ 他職種の役割がわからないと連絡・相談できない→ 他職種を理解できたか メンバーを通じて職種の役割を知ること、次に 初めて会った方でも相談できるようになる ・ 今までの顔会議の効果の確認 ・ 困った時に 相談する手段 が変わったか（電話やFAX⇒オンライン会議という変化など） ・ オンラインは「手段」であり、 顔会議への参加で、きちんと関係が築けたか （連絡をし合おうと思えたか）を確認



いただいたご意見を踏まえて、評価アンケートを作成し、顔会議の効果を確認して参ります

<報告>意思決定支援 支援者向け研修(eラーニング)

感染症収束の目途が立たない中でもできることとして、
意思決定支援の『知識・理解』の部分を**eラーニング教材**として作成して運用



◆意思決定支援の研修体系のイメージ図

知識・理解をeラーニングで得て、実践や活用につながる職能団体・事業所内研修や質の向上につながる。多職種との研修を経て、結果として、「その人らしく、最期まで」本人の意向を尊重したケアの実現につながる。それぞれの段階で、ガイドラインを活用する。

■ eラーニングの教材（案）

意思決定支援の『知識・理解』の基礎となり、職能団体等での研修の下支えとなるもの

コンテンツ	構成	内容案
①意義 ②効果	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援の必要性 ・意思決定支援のプロセスで生まれる効果・利点 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ意思決定支援が必要なのか？ 専門職にとってのメリット・意味づけ ・アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の考え方と効果の紹介
③実際	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援のシチュエーションの具体例 	<p>★意思決定支援の場面（やり取り）を紹介</p> <p>→イラストでわかりやすく紹介</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援のポイントや留意点 	<p>★多職種の経験談を紹介</p> <p>→ガイドラインにある疾患別の経験談を多職種にインタビューして、動画で紹介</p>

何気ない日々の生活の中で
発せられた本人の想いを
多職種で共有する大切さを
事例や経験談を通して紹介

★今後の取り組み予定

- ・意思決定支援に携わることが多い
在宅医、訪問看護師、ケアマネ、介護職に
シチュエーションの具体例や支援のポイント等をヒアリングし教材案の作成
- ・第3回研修部会で教材内容を協議（2月17日）
- ・**第3回連携協議会で報告・完成（3月）**
- ・ホームページ公開（4月以降）

